

「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果分析と対策について

行方市立麻生中学校

今年4月に3年生を対象に実施しました「令和7年度全国学力・学習状況調査」につきまして、本校の結果の分析と対策を以下のようにまとめましたのでお知らせいたします。

今後は、本調査結果の分析をもとにして、生徒の学力や生活習慣のさらなる向上を目指し指導を進めていきます。

【国語科】	〈分析〉 ・意見と根拠の整合性があるか、根拠に説得力があるかについて、吟味したり相互に読み合ったりして考える活動を取り入れてきたことで、情報と情報を関連付けて考える力が高まってきつつあります。 ・文脈に応じて適切な漢字を選択したり、誤って使用されている漢字を見つけて修正したりすることなどの漢字の同音異義語に関することに課題が見られました。 ・手紙の文章を見直して修正する場面で、読み手の立場となり文章を整えるとき、どのような理由のもと修正が必要なのか考え、文章を整えることに課題が見られました。 〈課題の改善に向けて〉 ・定期的に漢字テストを行い、文脈に即して漢字を使うことや同音異義語について考える取組を継続することで、漢字に関する知識の定着を図っていきます。 ・「読むこと」の単元と関連付けて、理由を明確にして推敲する力を高めていきます。また、相手に伝えたいことを書き出したり構成メモを作ったりする段階で推敲する活動を取り入れるなど、学習の進め方についての改善を図っていきます。
【数学科】	〈分析〉 ・一次関数のグラフをもとにして、変数x、yがそれぞれ問題場面の何を表しているかを確認したり、$x=0$のときのyの値を読み取ったりするなどの活動を継続してきたことで、グラフで示されている情報の中から課題解決に必要な情報を正しく選択する力が高まっています。 ・一次関数の式から、変化の割合と変数x、yそれぞれの増加量の関係を捉えて考える場面で、示された条件からyの増加量を求めることに課題が見られました。 ・「図形」領域については、平行四辺形の辺や辺の延長線上に任意の点を設定し、点の位置を変えても成り立つ性質を証明する問題で、変わる条件と変わらない性質を正しく捉えて証明を完成させることに課題が見られました。 〈課題の改善に向けて〉 ・一次関数の式をもとにした変数の値、増加量の求め方について授業はじめの5分間で復習を継続して行い、知識や技能に関する力を定着させていきます。自ら表を活用して関係を可視化する方法を選択できるよう、数学的な解決のよさを実感できるような授業づくりに努めます。 ・図形の証明場面では、「思考力、判断力、表現力」を高めていくために、与えられた条件を整理し筋道を立てて考える活動を継続して行っていきます。また、証明に必要な根拠を図形の性質から見いだしたり、「さらにこうすると…」のように条件を変えて探究的に考えたりする活動を大切にした授業改善を図っていきます。

【理科】	〈分析〉 ・「なぜ実験では精製水を使うのか」という身近な事象への疑問に対して、水道水と精製水の性質に着目して課題を記述するなど、課題を設定する力が高まっています。 ・元素を記号で正しく表現することに課題が見られました。 ・クリーンルームのように気圧を利用する身近な事象を選択する設問で、気圧に関する知識が概念として十分に身に付いていないという課題が見られました。 〈課題の改善に向けて〉 ・中学校で頻出する元素記号について、小テストや語呂合わせ、カード形式など様々な方法で知識が確実に定着するように、繰り返し指導していきます。 ・吸盤のしくみや密封された袋が高所へ行くとふくらむという気圧の身近な事象を実際に示して解説をするなど、気圧の基本的な知識の定着を図っていきます。
【教科全体を通して】	・教科のねらいや特性に応じて、「なぜ〇〇する必要があるのか」という疑問をもち、根拠を示してよりよく課題解決しようとすることに課題が見られます。特に記述に関しては、無答率も高くなる傾向が見られるため、苦手意識をもつ生徒の実態を捉え、グッドモデルの提示や「聴く つなぐ もどす」の対話的な学習活動を設定することで、自分の考えをもてるよう、適切な手立てを講じていきます。 ・各教科で出てくる記号・用語等を授業の様々な活動の中で繰り返し取り入れた指導を行い、適切に用いることのできる知識・技能を身に付けられるようにします。
【質問紙】	〈分析・改善〉 ・「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒が多いことから、前向きな気持ちで生活できていることが分かりました。 ・学校の授業時間以外に平日１日あたり２時間以上学習している生徒が、やや少ない傾向が見られました。目標や学年、学習内容に合わせて、家庭学習の充実を図っていきます。